

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第33週 (8/14-8/20) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		33週	32週	31週	30週
小児科		18	16	18	18
眼科		4	3	5	5
インフルエンザ*		28	20	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数  
「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県				千葉県 8/7-8/13 32週	
		注意報	8/14-8/20	8/7-8/13	7/31-8/6		7/24-7/30
			33週	32週	31週		30週
小児科	RSウイルス感染症	↓	11 0.61	11 0.69	13 0.72	7 0.39	137 1.07
	咽頭結膜熱		6 0.33	4 0.25	5 0.28	14 0.78	94 0.73
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		12 0.67	21 1.31	29 1.61	30 1.67	191 1.49
	感染性胃腸炎		39 2.17	44 2.75	64 3.56	77 4.28	272 2.13
	水痘		2 0.11	2 0.13	5 0.28	3 0.17	26 0.20
	手足口病	↓★★★	100 5.56	128 8.00	162 9.00	152 8.44	911 7.12
	伝染性紅斑		1 0.06	0 0.00	16 0.89	0 0.00	3 0.02
	突発性発しん		14 0.78	10 0.63	9 0.50	11 0.61	40 0.31
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ	↓★	36 2.00	82 5.13	133 7.39	158 8.78	420 3.28
流行性耳下腺炎		2 0.11	2 0.13	6 0.33	4 0.22	28 0.22	
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		4 0.14	15 0.75	13 0.46	0 0.00	47 0.24
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.25	4 1.33	0 0.00	2 0.40	19 0.63
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	病原体等の検出	腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	40歳代	病原体の検出		男性	60歳代	
結核	男性	70歳代	IGRA検査等		女性	10歳代	
結核	男性	80歳代	IGRA検査等		女性	20歳代	
急性脳炎	女性	10歳代	高熱及び中枢神経症状		女性	40歳代	
	女性	40歳代		アメーバ赤痢	男性	50歳代	病原体の検出

\*第33週は、結核4件(143)、腸管出血性大腸菌感染症5件(17)、アメーバ赤痢1件(3)、急性脳炎2件(16)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第33週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より減少し0.61となった。過去10年の同時期と比べると最多。

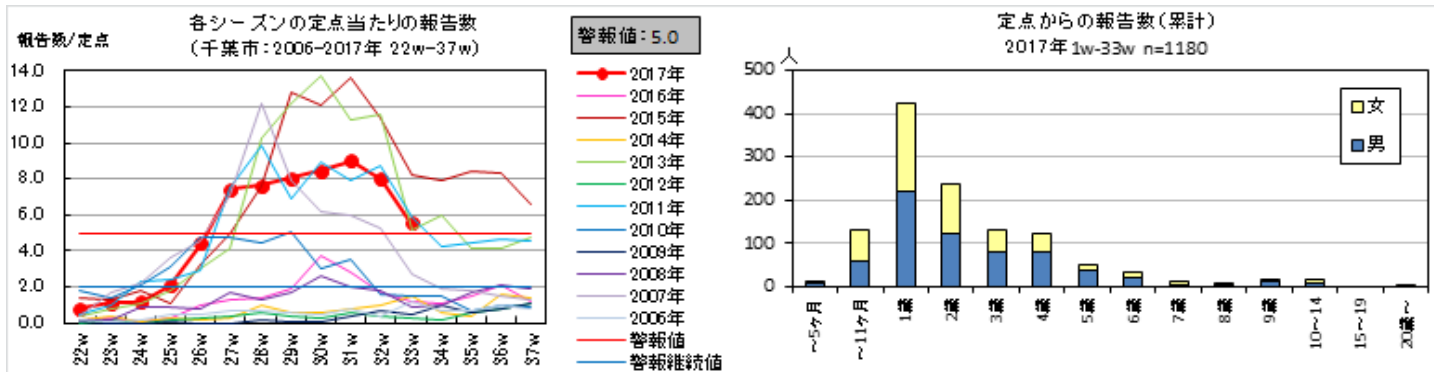
<手足口病> 前週より更に減少し5.56となった。過去10年の同時期と比べると多い。流行発生警報開始基準値を上回ったまま。

<ヘルパンギーナ> 前週より更に減少し2.00となり、流行発生警報終了基準値と並んだ。過去10年の同時期と比べると平均レベル。

■ トピック ■

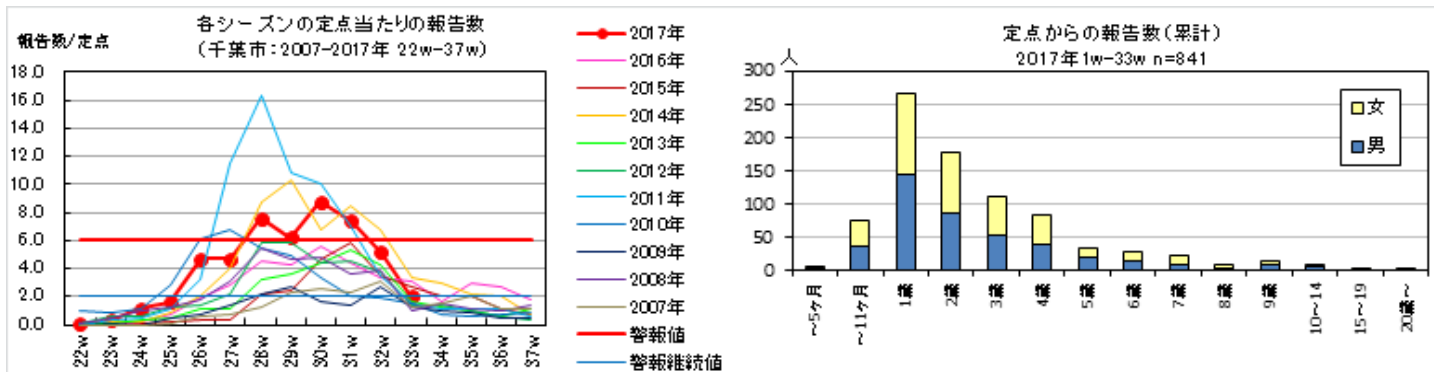
<手足口病>

全国レベルの第32週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、福井県、長野県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第33週は前週より更に減少し5.56となりましたが、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(10.5/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。他に中央区及び緑区で流行発生警報開始基準値を上回っており、稲毛区、花見川区及び美浜区で流行発生警報終息基準値を上回っています。2017年第1週から第33週までの累積報告数(n=1180)によると、性別では男性が54.7%(645名)、女性が45.3%(535名)で、年齢階級別では1歳(35.9%:424名)、2歳(20.0%:236名)、3歳(13.2%:132名)の順に多くなっています。



<ヘルパンギーナ>

全国レベルの2017年第32週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では宮崎県、山形県、千葉県の順で多く報告されています。千葉市の2017年第33週は前週より更に減少し2.00となり、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)と並びました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。区別の発生状況は、緑区(3.57/定点)で流行発生警報終息基準値を上回り最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。他に中央区及び稲毛区で流行発生警報終息基準値を上回っており、若葉区で流行発生警報終息基準値と並んでいます。2017年第1週から第33週までの累積報告数(n=841)によると、性別では男性が50.9%(428名)、女性が49.1%(413名)で、年齢階級別では1歳(31.6%:266名)、2歳(21.3%:175名)、3歳(13.3%:112名)の順に多くなっています。



<RSウイルス感染症>

全国レベルでは第19週から過去10年の同時期と比べ最多のまま推移しており、第32週も同様で過去10年の同時期と比べると平均+2SDを上回り大きく流行している状況となっています。都道府県別では福島県、愛媛県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2017年第33週は前週より減少し0.61となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、緑区(1.75/定点)で最多で、同区の1歳で多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から2017年第33週までの累積報告数(n=265)によると、性別では男性が55.1%(146名)、女性が44.9%(116名)で、年齢階級別では1歳(35.8%:95名)、6~11か月(29.4%:78名)、0~5か月(19.2%:51名)の順に多くなっています。

